

ロジスティクス源流管理マニュアル(Ver.1)

2005年3月16日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ロジスティクス環境会議

源流管理による環境改善委員会

はじめに

現在、環境問題は、大気汚染や水質汚濁等の産業公害を中心とする高度経済成長期までの問題から、地球温暖化や廃棄物問題などのように、企業を主体とした経済活動や、消費者としての日常生活に帰するものへと変化しています。それと同時に、不特定多数の人々が環境負荷を発生させるケースや環境負荷を発生させている原因者が、同時にその被害者になるケースも出てきている。このような中、企業が物流分野に求められる環境対策は温暖化（二酸化炭素等）、大気汚染（窒素酸化物や粒子状物質等）、廃棄物、水質汚染、土壌汚染等と広範囲に及んできています。

そこで、循環型社会に対応する企業の社会的責任（自らが環境負荷の源流となっている）として、また、ロジスティクスの視点から、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として環境負荷を低減する方策を検討するために、「ロジスティクス環境会議」の中に「源流管理による環境改善委員会」が設立され、本マニュアルが検討されました。

企業人にとって源流管理の意味は、製品設計や製品材料の問題と捉えがちですが、環境負荷を考えるとこの分野が大きく影響することは間違いありません。しかし、物流に携わる分野においても環境負荷を発生させており、増大もしていることから、環境負荷において物流も源流になっていると認識すべきであり、それを管理して最小限の発生に留めるように努力すべきです。物流のための資材を使用する場合もまったく同様です。後処理まで考慮に入れて採用すべきであり、まさに「源流管理」の概念が重要になってきます。

本マニュアルでは京都議定書で地球規模での取り組みが求められている二酸化炭素削減と近年のゴミ問題の重要性が高まる中での廃棄物削減に焦点をあて、荷主や物流事業者が現状の物流を見直す際のマニュアルを構築することを目的としています。

社団法人日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境会議
源流管理による環境改善委員会
委員長 小西 俊次

源流管理による環境改善委員会 活動経過

	開催日	時間	会場
第1回	2004年1月22日(木)	14:00～17:00	虎ノ門パストラル
第2回	2004年2月25日(水)	13:30～15:30	芝パークホテル
第3回	2004年4月5日(月)	15:00～17:00	芝パークホテル
第4回	2004年5月14日(金)	15:00～17:00	東海大学交友会館
第5回	2004年6月9日(水)	14:00～17:00	浜松町東京會館
第6回	2004年7月7日(水)	14:00～17:00	芝パークホテル
第7回	2004年8月30日(月)	14:00～17:00	浜松町東京會館
第8回	2004年9月29日(水)	14:00～17:00	浜松町東京會館
第9回	2004年11月10日(水)	15:00～17:00	浜松町東京會館
第10回	2005年2月9日(水)	15:00～17:00	J I L S 会議室

源流管理による環境改善委員会 委員

No.		会社名	氏名	所属・役職
1.	委員長	愛知陸運(株)	小西 俊次	常務取締役
2.	副委員長	早稲田大学	納富 信	環境総合研究センター 助教授
3.	委員	流通経済大学	矢野 裕児	流通情報学部 教授
4.	"	旭運輸(株)	浜岸 久和	取締役東京支店長
5.	"	(株)イトーヨーカ堂	栗田 典彦	物流業務改善プロジェクト サブリーダー
6.	"	ウバレットレンタルリーシング(株)	酒田 健治	専務取締役
7.	"	大阪ガス(株)	鶴田 博己	EC開発部 購買物流チーム マネージャー
8.	"	川崎陸送(株)	上野 明	業務部長
9.	"	グリコ乳業(株)	河原 毅	経営推進本部 物流業務部 物流業務グループ
10.	"	クリナップロジスティクス(株)	富樫 巧	企画第一グループ 主任
11.	"	(株)合通	朝山 泰行	G.L.C 東京 所長
12.	"	佐川急便(株)	別所 恭一	管理本部 環境推進室 室長
13.	"	サッポロビール(株)	大野 一尚	SCM 本部 サプライチェーンマネジメント部 管理グループ マネージャー
14.	"	三岐通運(株)	佐藤 元樹	関連製品輸送部 部長
15.	"	山九(株)	上津原 鉄也	物流本部 Eコマース専門部長
16.	"	新ナジコ興産(株)	指村 儀一	業務部 担当部長
17.	"	住電装ロジネット(株)	廣木 眞治	代表取締役社長
18.	"	ダイハツ工業(株)	増田 正義	物流部 主査
19.	"	(株)東芝	竹島 恭治	生産企画部 生産企画担当 参事
20.	"	東洋紡績(株)	白濱 善一郎	参与 物流部長
21.	"	トヨフジ海運(株)	山田 寛	人材開発部 安全環境室
22.	"	(株)ニチレイ	飯島 則夫	低温流通カンパニー 低温物流企画部 技術グループリーダー
23.	"	日本水産(株)	出口 朋司	総合物流事業部 事業課長
24.	"	(株)野村総合研究所	森川 健	社会産業コンサルティング部 産業変 革コンサルティング室 上級コンサルタント
25.	"	(株)バンダイロジパル	馬場 範夫	取締役 執行役員 管理本部長
26.	"	(株)ヒガシトゥエンティワン	天本 幸広	東京本部 ニューマーケティング部長
27.	"	(株)日立製作所	二ノ宮 滋	モノづくり技術事業部 トータル SCM センタ長
28.	"	福岡倉庫(株)	黒田 朗	東京支店 営業部 営業係
29.	"	(株)フジトランスコーポレーション	戸谷 武彦	第二国内物流部 部長
30.	"	(株)ポッカコーポレーション	伊藤 久生	物流・業務本部 ロジスティクスグループ セネラルマネージャー
31.	"	ホンダロジコム(株)	鈴木 憲一	常務取締役
32.	"	三井倉庫(株)	中谷 幸裕	リスク管理部長
33.	"	明治乳業(株)	新堀 誠治	物流部長

目 次

ロジスティクス源流管理マニュアルの活用方法	1
本マニュアルの背景と狙い	2
第1部 組織の対応 ～職場の活性化と企業活動～	3
1．職場の活性化	3
1.1 人の育成	3
1.2 職場内での活動	3
1.3 業務への展開	3
2．企業活動	4
2.1 全社活動の一環としての位置づけ	4
2.2 活動目標値の設定	4
2.3 活動の成果・フォロー体制	4
2.4 活動成果の公表(環境報告書、部門別報告書等)	4
人の育成 ～環境型人間の育成～	5
1．施策概要	5
2．施策の実現に向けて	5
3．環境家計簿による実践	6
4．参考情報	7
第2部 環境負荷低減方策 ～包装、輸送、保管・荷役での取り組み～	8
1．包装、輸送、保管・荷役の統合的な整理	8
2．包装	10
．CHECK	11
1) 包装の確認	11
(1) 自社内で解決すべき課題	13
(2) 関係者を取り込んで解決すべき課題	13
(3) 行政等広義に解決すべき課題	13

. PLAN	14
1) 優先順位の選択	14
2) 環境負荷低減施策の選択	16
3) 仕様と使用量の選択	17
. DO	19
1) 実績把握と維持管理（環境負荷低減とコスト）	19
2) 対象範囲の拡大	19
3 . 輸 送	20
. CHECK	21
1) 輸送の確認	21
. PLAN	24
1) 輸送機関の選択	24
2) 陸上輸送手段の選択	30
3) 輸送ルートの選別	33
4) 物流事業者選定	37
5) 運行パフォーマンスの向上	40
. DO	43
1) 実績把握と維持管理（環境負荷低減とコスト）	43
4 . 保管・荷役・流通加工	44
. CHECK	45
1) 保管機能の確認	45
2) 荷役の確認（場所、制約）	45
3) 荷役と保管との区切り	46
4) 流通加工の確認	46
. PLAN	47
1) 保管方法の見直し	47
2) 搬送機器等倉庫内機器の見直し	47
3) 倉庫内オペレーションの最適化	47
4) 要求機能と倉庫仕様とのマッチング	47
. DO	48
1) 実績把握と維持管理（環境負荷低減とコスト）	48